

薬学部

- I 研究水準 研究 4-2
- II 質の向上度 研究 4-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成16年度～平成19年度で審査付きの学術論文は、教員一名当たり年平均2.41件である。そのうち英文学術論文は、年平均2.23件で全体の92%を占め、また、平成16年度から平成19年度までのインパクトファクター（IF）4以上の論文数は合計92件であり、英文学術論文339件の27%であった。研究資金の獲得状況については、受け入れ金額の各年度の総額は、1.4～2.0億円、教員一名当たりの受け入れ額は、366～524万円であり、外部資金による研究費獲得に対する努力が窺われることは、相応の成果である。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、基礎的な有機化学の分野で卓越した業績がみられ、その他、相応に優れた業績と評価できるものも存在した。しかしながら、薬学は総合科学であるのに対して、卓越した業績と認められる業績が有機化学の研究のみで、今後の総合的発展が期待される。社会、経済、文化面では、徳島のすだちに血糖値抑制効果を見いだしていることが、注目され、事実新聞報道もなされていることは、相応な成果である。

以上の点について、薬学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、薬学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は11件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。